



神崎中学校 3年  
はしもと あゆみ  
橋本 歩実 さん

# 私の好きな漢字

自分の名前にあり、幼い頃から通っている書道教室で一番練習しているので選びました。一歩ずつ着実に進んで成長し、いつか「と金(金と同じ価値)」に成るようにと願いが込められています。勉強や部活動でもコツコツと努力を積み重ね、周囲から必要とされる価値のある人になれるよう、目の前の一歩を大切にしていきたいです。

## ◆◆◆ 文芸コーナー ◆◆◆

### ◆ 俳句 (ひしの実句会)

揺るぎなき  
決心ありや入学す

香月富士雄

ねぎ一束  
百円なりと無人かな

牟田口則子

桜餅喰ふては友と笑ひこけ  
井上 豊美

初乗りの  
電車二両でありにけり

田原 静子

毛糸帽波のうねりの日本海  
畑石 勝子

墨絵めく冬の山河や風唸る  
牟田 鶴美

### ◆ 川柳 (あおば会)

花カンナ空の青さや畑守る  
眞島 永治

太い脚  
立派な足と褒められる

柳郷 勝吉

妻の側いちばん危険  
棘ささる

島 信秀

目ん玉が飛でるほどの  
高い肉

佐藤久仁子

早春や  
笑顔をもらう笑顔の日

眞島 壽子

雪とけて  
春風ゆれるホトケノザ

前田 久子

春うらら  
色あざやかに花の園

吉岡 明美

### ◆ 短歌 (神崎短歌会)

先立ちし笑顔の夫と  
今朝もまた  
お茶をどうぞと  
共に飲みたり

田中 と代

冬に咲く雪中四友花がある  
梅にろうばいささんか水仙

羽野 智子



### 人のうごき [令和8年2月末現在]

- 人口：29,838人  
(対前月-10人)  
(男性/14,394人 女性/15,444人)
- 世帯数：12,611世帯  
(対前月+3世帯)



### 今月の納期

- 浄化槽使用料(2~3月分)  
※使用人員の確認をお願いします



### 市の広報番組

- 「よかね神埼」  
ぶんぶんテレビの14分番組  
月・火・木・金・日曜日  
12:30~、21:30~  
※番組編成により放送時間が変更になる場合があります

神崎のまちで、きらりと輝く活躍をされている方達を紹介します。



褐色細胞腫SNS患者会主宰/  
 佐賀県がん予防推進委員  
 吉岡 紀子 さん

## やさしさの連鎖をつなぐ

— 希少がん患者としての経験からはじまった支援活動 —

希少がん「褐色細胞腫」の患者会を主宰する吉岡紀子さん。吉岡さんが病氣と向き合うことになったのは37歳のときでした。原因不明の体調不良で3年間多くの病院を訪ね、ようやく「褐色細胞腫」と診断されました。主治医から「あなたが諦めずに探し続けたから見つかったんですよ」と声をかけられました。「その言葉を聞いたとき、それまでの悔しさや孤独感とともに、見つかった喜びが一気にあふれました」と吉岡さんは振り返ります。そして「同じような境遇の方の力になりたい」と病室からSNSでの発信をはじめました。治療の情報の共有や、手術を控えた方へのメッセージなど個人の活動が、患者会としての活動へと広がりました。

イラストレーターの326(みつる)さんにも参画していただき、患者会の象徴となる作品「幸せのバトン」も生まれました。

現在は、若い世代のがんについて伝える「AYA WEEK」の啓発活動にも取り組んでいます。「がんは遠い存在ではないことを知り、周囲の理解や検診につながれば」と吉岡さん。啓発活動では、「トヨタ紡織九州レッドトル

ネードSAGA」など県内プロスポーツチームも協力。「一人の患者に力を貸してください。企業の姿に温かさを感じました」と語ります。外からは分かりにくくても病氣と闘っている人がいます。その存在を知り、思いを寄せることが、誰かの力になるかもしれません。「早めにごん検診を受けましょう。大切な人のためにも、自分自身の体を大切にしてください」と吉岡さんは呼びかけています。



326さんの作品



試合会場での啓発活動を行う吉岡さんたち

## 市長コラム

### 災害への備え

今年の3月11日は、東日本大震災から15年の節目の年ということで、NHKをはじめマスコミ各社においてさまざまな特集が組まれました。震災当時の様子やその後の復興の様子、さらには福島原発の廃炉の様子など、映像を見るたびに震災が昨日のことのように思い出されました。

そうした話の中で、私が特に気になったのは「災害への備えは進んだか」ということです。本市は南海トラフ巨大地震による津波被害の想定はありませんが、地震による建物の倒壊や、激甚化する豪雨災害のことを考えると、災害への備えは決して他人事ではありません。そのため本市においても、毎年点検を行いながら計画的に災害への備えを進めています。能登半島地震を踏まえ、災害時の備蓄品基準が見直されました。災害時に物流が停滞するリスクを考えると、備蓄量は従来の「3日分」から「最低3日分〜1週間分」への見直しが進んでいます。

従来の常識が全て正しいと考えず、何か足りないものはないか、不十分なものはないかという視点でいつも考えるようにしています。本市も、新年度に備蓄量を増やすこととしています。

また、千代田町福祉センター跡地に「南部地区防災備蓄配送センター」を整備し、いざという時の

備えをしっかりと行うことで、「安全・安心なまちづくり」を推進していきたいと思えます。さて、4月28日には、私が市長に就任して丸2年を迎えます。この2年間、神埼市の信頼回復とイメージアップに努めてきました。また、豪雨災害対策の充実や地域公共交通の見直しなども取り組んできました。言ってみれば、これまでは種まきをしてきたと思っています。

3月に「スノーピークグラウンズ吉野ヶ里」がオープンし、10月には地域公共交通である西鉄バス江見線の運営体制や巡回バスのあり方も変わります。さまざまな変化がこれからの神埼市の大きな発展に繋がるよう、これからも頑張っていきたいと思います。



神埼市長 實松 尊徳

### 市長交際費の公表

令和8年2月分

項目	件数	支出額(円)
弔慰	0	0
御祝	0	0
激励	0	0
会費	0	0
見舞い	0	0
その他	0	0
計	0	0